

奈良市 実証実験スタート

もてなし×エコ

観光客の
小型ごみ

無料で引き取り

観光客らによるごみのポイ捨てを減らそうと、奈良市は、中心市街地の飲食店など11施設の協力を得て、ごみを無料で引き取る実証実験を12日からスタートさせた。観光客らが持ち込むペットボトルや空き缶といった小型のごみに限って、協力店舗に引き取ってもらう。同市ではインバウンド（訪日外国人）を含む観光客が増加する中で、奈良公園の鹿がプラスチックごみを食べて健康被害を受けるなど、ごみ問題が深刻化している。市は協力店舗に、事業系ごみの処理に相当する月額5000円を支払う。

飲食店など11施設

実証実験は年末の12月27日まで。同サービスは年間1700万人を超える観光客が訪れる市が、観光客に「ごみを持ち歩くストレスを与えず、気持ちよく観光を楽しんでもらう」「おもてなし」として試行する。



「おもてなしエコ活動協力店」のステッカーを手に、実証実験について語る奈良市の仲川元庸市長＝11日、同市役所

- 対象施設・店舗は、奈良町南観光案内所「鹿の舟」（井上町）▽市総合観光案内所（三条本町）▽魚智水産（南市町）▽にこすたい（高御門町）▽Fresh Mart OKest 餅飯殿（餅飯殿町）▽ピストロ中華へいぞう（花芝町）▽もりわきハンバーグ（東南町）▽奈良イタリアンバンブー（今御門町）▽なら工芸館（阿字万字町）▽奈良町にぎわいの家（中新屋町）▽市観光センター「カフェエトランジェ・ナラッド」（上三条町）。

仲川元庸市長は11日の記者会見で「観光客急増に伴い、さまざまな問題も出て、その一つがごみ問題。最近では歩きながら飲食することでごみの散乱が目につくようになり、鹿の問題も発生している」と指摘。その上で、観光客にごみを持ったまま本寺を参拝したり、移動したりするよう求めるのは現実的ではないとして、「観光客が滞在中、快適に過ごしてもらえよう、また街中や社寺等でごみが目につくことがないよう、おもてなしの一環でごみを引き取ってもらえるお店を募った」と説明した。

また「初の取り組みだが、ごみの量や中身が分かればその傾向に応じて来年度から追加的措置も取れる」としている。

協力店舗・施設などは「おもてなしエコ活動協力店」のポスターやステッカーを掲出する。さらに無制限にごみが捨てられることがないよう、ごみの引き取りは「対面」「手渡し」で行う。大きなごみやおむつ等汚物などは引き取らない。引き取りのごみは店舗等が出す場合、事業系ごみとなるため、市は週4日以上協力することを条件に月額5000円を支払う。

奈良は36%策定

公営企業改革計画

総務省は12日までに、水道や交通など、全国の自治

県政映す100

統計の小

県の特徴や課題を統計数字で分かりやすく紹介する小冊子「100の指標から

